

原爆写真展開催！



署名に応じる若者、写真に見いる市民

== 歴史的原子爆禁止世界大会をまえに ==

原水爆禁止網走協議会は、15日16日の2日間エコーセンターロビーで原爆写真展と新日本婦人の会の「絵手紙サークル」の展示も行いました。今年度の原爆写真展は、国連で開かれた「核兵器禁止条約会議」で、条約が締結されるといふ歴史的な出来事があったなかでの写真展となりました。

2日間の写真展では、お父さんやお母さんの親子連れや中高生をはじめ現役の労働者、高齢者の方々など多くの年齢層の市民が立ち寄り、じつと見つめて原爆の悲惨さを痛感しているようでした。また、ある高齢の女性は



「新日本婦人の会」のみなさんの『絵手紙で平和を』

「写真を見てはハンカチで涙をぬぐい一枚一枚じっくりと見ていました。そして、「私が小学生の時に戦争が終わったが戦争ほどひどいものはない。二度と戦争はしてはならない。それなのに今の政治はどうなっているのか、安倍さんは人の意見を聞こうとしない傲慢でとても恐ろしい。どうして安倍さんのような人が総理大臣なの？」と怒りの声を上げていました。署名にもご協力をいただきましたが、常呂町の方でしたが、帰り際に、これからも頑張ってくださいと励ましの声をかけていただきました。

「新日本婦人の会」のみなさんの『絵手紙で平和を』

●● 原水爆禁止世界大会2017年 長崎大会代表派遣者決まる ●●

国連で「核兵器禁止条約」が採択されたもとで開かれる歴史的な、「原水爆禁止世界大会2017年」長崎の代表派遣者に、原水爆禁止網走協議会理事の松浦敏司さんに決まりました。日本の被爆者をはじめ粘り強く運動してきたことが、とうとう世界を動かしました。今年度の世界大会には、エレン・ホワイト核兵器禁止条約交渉会議議長、中満泉国連軍縮問題担当上級代表も参加します。松浦敏司さんは「今年度の大会は長崎です。暑さの苦手な私ですが、世界の人達と歴史的な大会を成功させるために頑張ります。」「と話しています。現在派遣（旅費）のための募金をお願いしています。多くの市民のみなさんのご協力を心よりお願い致します。



大会記念缶バッジ



ショウドウツバメ

松浦敏司の戦メモ

人類史上初めて、核兵器を違法化する核兵器禁止条約が、ニューヨークの国連本部で開かれていた「国連会議」で採択されました。国連加盟国193カ国の約3分の2にあたる122カ国の賛成、棄権1、反対1で圧倒的多数で条約ができました。しかし、唯一の戦争被爆国の日本政府は、アメリカの圧力に負けて参加していませんでした。安倍政権は、いったいどこの国の政府なのかと疑いたくなる態度です。条約には、核兵器の「開発、実験、生産、製造、取得、保有、貯蓄」などが禁止され、さらに「使用、使用の威嚇」などが禁止され「核抑止力」も含め全面的に違法化されます。日本政府は「核の傘論」を主張していますが、広島、長崎の原爆の残酷性を知る日本人として恥ずかしい限りです。核兵器の使用は絶対に認められません。

街・スポットライト



庁舎前にある「母子像」は、市が『平和都市宣言』をしたのを記念して、今から26年前に建てられたものです。そして次のように宣言しています。『永遠の平和は、人類すべての願いです。唯一の被爆国である日本は、核兵器の廃絶と戦争の根絶を世界に訴えています。』

流水

▼「北海道子ども本のつどい8/19」に貼つてある美しいポスター。▼初日は「生きる 劉連仁の物語」の作者森越智子さんの講演と、堀川真さんの対談。▼劉連仁という名を知ったのは数十年前。詩人茨木のり子氏の詩「りゅうりえんれんの物語」だった。宇野重吉氏や山本安英さんがラジオで朗読もされたという。▼「生きる」は太平洋戦争中に日本軍により強制連行された北海道の炭鉱で過酷な労働を強いられた若者が、北海道の山中で13年間逃げ続け生き抜いた物語。▼劉氏が見つかった時、国は「不法残留の疑いがある」と強制連行の事実を認めざるを拒んだ。当時の内閣総理大臣岸信介が強制連行の根源「華人労働者内地移入に関する件」閣議決定の最高責任者（商工大臣）だったのだ。▼対談相手の堀川真さんといえ「もりのやきゆうち」むふあいた「ず」が人気で第三弾の出版も決まったとか。▼作家と、読み手の子どもや大人が一同に会し「子ども本」について語り合うつどい。▼講演タイトルは『生きるために必要な3つのこと』子どもが子どもらしく生きて、自分らしく生きる大人になるには』とある。▼8月19日のその日まで考え続ける。生きるために必要な3つとはなんだらう、と。(た)